

明野小学校の経営について(説明)

R5. 4. 22 苫小牧市立明野小学校長 上埜 幸喜

新型コロナウイルスの感染症分類が5月より2類から5類に移行されることになり、マスクの着用の判断も個人に任せられるようになりました。本校におきましては、基本的な感染対策は継続しつつも、北海道教育委員会や市教育委員会の通知に沿って、緩和すべき部分は緩和し、令和5年度の新学期をスタートさせています。

保護者の皆様には、日頃より、本校の教育活動やコロナの対応に深いご理解とご支援をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度の学校経営「新しい時代の明野小の教育」(30th anniversaryを飛躍の年に)(別紙カラー版)について、書面にて説明をさせていただきます。(赤字については、今年度新たに追加、見直し、修正した部分です)

1 本校の教育目標

本校は平成6年に開校した今年度で30年目を迎える、市内小学校では5番目に新しい学校(今年度、義務教育学校として植苗小中学校が新たに開校しました)です。開校当初から、次の時代や未来を担う子どもたちを育てたいという願いから、

教育目標を

「**未来社会を築く力を身に付ける児童の育成**」、

子どもの姿を

「**進んで学ぶ子 思いやりの心をもつ子 じょうぶな体をつくる子**」

と設定し、知・徳・体の3つをバランスよく育むようにしてきました。

学校は、この教育目標の達成に向けて、その時代の子どもたちのよさや課題、地域や保護者の皆様の願い、文部科学省が示す教育の方向性や新学習指導要領、胆振管内の教育推進の重点、苫小牧市の教育の重点などを踏まえて、その年度に合わせた重点化を図っています。

2 児童の様子(よさと課題)

本校の児童は、穏やかで心の優しい子が多く、言われたことには素直に取り組む様子が見られます。学力については、昨年度も全国学力学習状況調査において安定した結果を示しており、国語、算数、理科のすべてで全国平均を超え、とりわけ理科においては、全国平均を大きく上回りました。

しかしながら、本校の児童は自分で判断したり、自分から進んで行動したり

する面に弱さが感じられ、ここ数年そのことを高めていくために教育活動に変化を加え、取組を進めているところです。その代表となる取組が「プロジェクト活動」で、スポーツフェスティバル、文化フェスティバル、縦割り班遠足もそれにあたります。この取組を始めて以来、子どもたちの中に“自分たちで作り上げたい、形にしたい”という気持ちが生まれています。これらの活動を通して、変化の激しい社会を生きるための資質・能力といえる「自主性・主体性」を本校児童に育てていきたいと考えています。

また、コロナ禍で急速に進んだ一人一台タブレット端末の普及ですが、学びの幅を広げる多大な効果が見られる一方で、使い方のルールやマナーなど課題も他方から様々聞こえるようになりました。本校においては深刻な事例はまだありませんが、グループ内でやり取りする^(※1)Teams など、誤った使い方が生徒指導上の問題、いじめなどの個人を傷つける誹謗中傷等につながるという危惧があります。それ以外に、生徒指導に係わって、昨年度は公園でのトラブルなど、問題行動が以前よりも増える傾向にありました。基本的な生活習慣や日常の行動では、とくに社会生活で最も大切な「あいさつ」や「時間を守る」、校内での規範意識の育成に欠かせない「廊下歩行」等の意識化と定着について、継続的な指導が必要と考えています。以上のことから、子どもたちに思いやりなどの豊かな心を育むとともに自律性を高める(周りに左右されずに、自分勝手な行動を抑え、自分の考えで自分の行動を決める)ことも今年度、力を入れていく課題となります。

※1 Teams (チームス)・・・リアルタイムにタブレット上でコミュニケーションできる機能

3 日本が目指す教育の方向性

昨年度の説明と重複いたしますが、令和3年1月に文部科学省の中央教育審議会より「令和の日本型学校教育」という答申が示され、これからの進むべき日本の教育の方向性が明確になりました。そこには、急激に変化する時代の到来と新型コロナウイルスという想定外で先行きが不透明な状況下で、子どもたちに育むべき資質能力について、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」と示されています。

そのために学校には、教職員の課題である働き方改革を推進するとともに、国の施策である^(※2)GIGAスクール構想の実現に合わせたICT(情報通信技術)の積極的活用、教育計画の基準である新学習指導要領の着実な実施等、必要な改革を躊躇なく進め、従来の日本型教育を発展させ、令和の時代にふさわしい教育の実現を目指すことが求められています。

このことを踏まえて、本校においても、新型コロナウイルスがある程度収束する状況にあり従来の落ち着いた生活を取り戻す中で、新しい時代の教育への

転換を加速していかなければならないと考えています。

※2 G I G Aスクール構想とは ・一人一台端末を実現し、多様な子どもたちに最適で創造性を育む教育を行うこと
・学校のネット環境を整えること

4 目指す子どもの姿（指導の重点）

教育目標を現在の子どもたちの現状や新しい時代に求められる資質能力の育成に合わせて重点化し、生きる力を育てていくために、本校では次の3点を
目指す子どもの姿（指導の重点）として、設定しています。

- (1) 自分を律し、人を大切にする子 自律と協働・協調
- (2) 自分の考えをもち、表現する子 探究と創造 情報活用とコミュニケーション
- (3) 自分の夢に向け、チャレンジする子 自主性と主体性 挑戦と努力

(1) について

「自分を律し」という文言を今年度追加しました。先に示した通り、様々な形の生徒指導上の課題が発生する昨今、子どもたちには、日常の行動や生活で周りに左右されず、自分勝手な行動や誤った行動を自ら振り返ったり、見つめなおしたりしながら、自分の考えで行動する力（自律）を身につけさせたいと考えています。そのことが自ずと人を大切にする心や豊かな心につながっていきます。併せて、互いに協力しながら活動を進める場面や話し合う場面（協働・協調）を通して、「人を大切にする子」に成長させたいと思います。

(2) について

昨年度は「自分の考えをもつ子」「自分の考えを表現する子」としていましたが、それを合わせて「自分の考えをもち、表現する子」としました。

学び方を自分で選択したり決定したりすることを通して、考えを深めたり自分なりの考えを作り上げたり（探究と創造）する学習活動を推進します。また、ICT・タブレット端末の効果的な活用によって学び方の幅を広げ、情報を取捨選択する力や正しいことにたどり着く力をつけ、友だち同士で共有（情報活用とコミュニケーション）し、「自分の考えをもち、表現する子」に近づけたいと考えています。

(3) について

「自分の夢に向け」という文言を追加しました。学習や生活の中で培ってきた力をもとに、本校独自の「プロジェクト活動」等の中で自分の考えた活動をさせていきます（自主性・主体性の育成）。自分たちがやりたいことを実現させるためには何をすればよいのか、どのようにすればうまくいくのかを考え、試行錯誤しながら作り上げること（挑戦と努力）を大事にします。小さな成功体験の繰り返しや或いは失敗することの体験が、子どもたちの将来の大きな夢に向けてチャレンジする力になっていくことを目指します。この活動に併せて、運動会を“スポーツフェスティバル”、学習発表会を“文化フェスティバル”に名称も含めて取組の形を変えました。子どもたちが考えを

出し合いながら作り上げたものをご覧いただきたく存じます。

5 今年度の課題（経営の重点）

子どもたちが豊かに生き生きとした学校生活を送るためには、

- ①学校と家庭・地域が車の両輪ようになって子どもたちを支えていくこと
- ②教師の働き方を見直し子どもと向き合う時間を確保することや、スリム化を意識しながら子どもが生きる教育活動に作り替えていくこと
- ③子どもたちの多様な学びを保障するとともに、落ち着いた生活環境や温かい人間関係を整えること

が極めて大切であると考えています。そこで今年度の課題（経営の重点）を以下の3点、設定しました。

（1）地域・家庭との連携と信頼関係づくり

職員間で子どもたちの学習・生活の状況を様々な機会を使って共有するとともに、学校組織の連携を高め、指導に当たっては同一步調を心がけることで、子どもたちがよりよく成長できるようにしていきたいと考えています。また、子ども個々の課題や指導が必要な内容に対して、共感的理解に努めるとともに保護者の皆様の思いを大切にしながら、より適切な解決や方向が導き出せるように努めてまいります。

本校が進める教育活動については、そのねらいやよさ、子どもの様子等を学校だよりや様々な機会でお知らせすることで、目指す姿を地域や保護者の皆様と共有しできるようにしていきます。

必要な連携を確実に行っていくことが、学校と地域・家庭との信頼関係を高め、子どもを伸ばす道筋と考えます。

（2）働き方を踏まえ、子どもが生きる教育活動づくり

コロナ前の日常へ元に戻すものは元に戻し、^(※3)「効果的・効率的で、魅力ある教育活動」という目標に向けて、ねらいの明確化と働き方の改善、子どもの生き生きとした姿をイメージした新しい時代にふさわしい内容となるように行事や校内諸活動を創り、定着させていきます。その場合も、保護者の皆様の思い（目線）とかけ離れたものにはならないように、丁寧な説明や周知に努め、共感と理解を得られるようにしていきたいと考えています。

また、働き方改革の視点から、校内では、組織的・協働的・機動的な校務運営を推進し、各学年・ブロック・校務分掌において、一人一人が平均的に業務を分担することや複数体制で業務を推進することで互いに補完し合い、特定の職員に仕事が偏らない体制を整えていきます。また、教育活動や校務運営の現状、問題点等を出し合い改善の方向性を考えるために、今年度も校務の各部長により編成する「働き方改革コア（核）チーム」を設置し、年間を通して学校運営の改善を図っていきます。

以上のことを通して、働き方を改善しながら、子どもと向き合う時間の確保に努め、教育活動がより一層子どもたちにとって充実したものになるようにしていきたいと考えています。

※3 「効果的・効率的で、魅力ある教育活動」とは 効果的→目指す子どもの姿や目標に到達できるものか
効率的→働き方を踏まえたものか
魅力ある→子どもの意欲を引き出せるものか
という3つの視点が成立する教育活動

(3) 落ち着いた学びと生活の環境づくり

子どもは一人一人みんな違います。子どもの内面（性格、悩み、友だち関係等）を理解し、心に寄り添うかかわりを大切にしながら、何でも話せる空気や助け合ったり話し合ったりする場面を教室につくりあげていくことで、子ども同士や子どもと教師との良好な関係を築き、「安全・安心で楽しい学校」とどの子どもも思えるようにしていきたいと考えています。

また、どの学年においても本校の学習規律（明野スタンダード）を定着させるとともに、うちガク等の学習習慣、日常の大切な生活習慣（あいさつ、時間を守る等）や規範意識（廊下歩行等）を身に付けさせることに力を入れます。併せて、道徳科の授業を重視することや職員間の同一歩調と丁寧で積極的な指導を継続することで、子どもに豊かな心を育み、生徒指導の充実につなげていきます。

授業におけるICT（情報通信技術）・タブレット端末の積極的かつ効果的な活用で子ども一人一人の学びの幅を広げ、個々に最適な学習になることに努めていきます。また、指導者側のICT・タブレット端末の活用技術に個人差が出ないように校内研修を充実させ、学年が上がっても、担任が変わっても、子どもたちが迷わず学習できる校内体制の維持に努めてまいります。

6 重点の具現化

上記の「4 目指す子どもの姿（指導の重点）」「5 今年度の課題（経営の重点）」を日常の教育活動や校務運営、地域・家庭との連携の中で具現化してまいります。そのことを着実に実践に結び付けていくために、とくに力を入れる21項目を設定いたしました。

(1) 学びの土台づくり

子どもたちにとって大切な居場所である教室で、**子どもと子ども、子どもと教師の良好な関係づくり**を進めながら、「**明野スタンダード**」（学習規律）の定着を図り、**特別支援教育支援員・学習指導員と連携**して、安心して学習できる学びの土台をつくっていきます。

1年生については、今年度1学級編制になったことから、今までも行ってきた**スタートカリキュラム（幼児期から小学校教育への円滑な接続を目的としたカリキュラム編成の工夫）**をより**充実**させ、どの子も安心して学校生活を送れるようにしていきます。

また、3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科は明野中学校の外国語加配教員(根岸教諭)とALTが授業を行います。本校職員も**校内研修を通して、外国語教育の実践力強化**に努め、学校全体の指導力の底上げを図っていきます。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業改善

新学習指導要領が示すこれからの学びの姿「主体的・対話的で深い学び」は座学中心ではなく、話し合いやグループ活動で学びを深めるアクティブラーニング(Active Learning)です。そこに「令和の日本型学校教育」では、新しい時代に必要とされる授業改善として、「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の**一体的な充実**を掲げています。「個別最適な学び」とは、タブレット等のICT機器の活用を含めて個に応じた学びの幅を広げることや多様な子どもたちのニーズに対応していくことであり、「協働的な学び」とは、子ども同士または様々な人たちと協働することで、いろいろな考えを組み合わせより良い考えを導き出す学びを進めていくことを指しています。そのような授業づくりを本校でも重視し、**校内研修を充実**させたいと考えています。

また、本校の授業改善について、**授業公開の場を設定**し、他校の先生方にも広く意見を聞くようにしていきたいと考えています。

(3) タブレット端末の適切な活用

一人一台のタブレット端末を学年の発達段階に応じて、適切な活用を推進していきます。授業においては**日常の効果的活用**を進めるとともに、その際の**利用の約束(ルールやマナー等)**を定着させていきます。

(4) うちガクの充実

日常の学習習慣の定着のために、宿題と家庭学習を合わせた時間「**学年×10分+10分**」の**意識化**を指導していきます。

また、ノート等の点検については、子どもと向き合う時間の確保の観点から、コメントが必要な場合以外はスタンプ等で対応するようにします。意欲の低下につながらないように、取組の様子を廊下や教室に掲示する等、**評価の工夫・改善**を進めてまいります。さらに、**うちガク週間の設定回数を年4回に増やし、個々の実態把握に努め指導を継続**していきたいと考えています。

(5) カリキュラムデザイン

それぞれの教科のよさや要素を取り入れながら、地域や子どもを取り巻く環境(物や人)の特色を生かして学習を組み立てること(カリキュラムデザイン)で、学びを創造性や探究性に富んだ充実したものにしていきます。主に、**生活科・総合的な学習の時間を核**に進めていきます。

(6) 特別支援教育の充実

一人一人の子どもの困り感の把握と支援のあり方について、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援委員会で話し合い、そこでの方向性をもとに担任へのアドバイスやご家庭との連携を行ってまいります。今年度も子どもにとってよりよい指導を行うことを目的に校内支援委員会の充実を図ってまいります。

(7) 道徳教育の充実

道徳教育はすべての教育活動を通して進めてまいります。自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める道徳科授業を重視してまいります。子どもたちの道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度等、豊かな心を育てたいと考えています。また、高学年を中心に外部講師を招くことや様々な問題事例を取り上げて、情報モラル教育の強化に努めてまいります。

(8) 校内生活の定着

知っている人や校内では、「いつでも・どこでも・だれにでも」のあいさつ指導を徹底し、挨拶がもつ人とのつながりの大切さを感じさせ、みんなが気持ちよく生活できるようにさせたいと思います。また、全職員が足並みを揃えた指導をすることで、社会生活で大切な時間を守る、落ち着いた日常生活に必要な廊下歩行等の規範意識の醸成に努めていきたいと考えています。

(9) 積極的な生徒指導

子どもたちの心に寄り添い何でも話せる関係を築くとともに、子どもの日常の様子や子ども同士の関係に注視し、問題と感じることを見逃さない未然防止の指導に努めてまいります。また、生徒指導上の問題行動が見られた場合には、子どもの話をよく聞き、迅速で丁寧な対応を徹底してまいります。

(10) 基本的生活習慣の確立

本校では、基本的生活習慣定着の取組として「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を保健室より呼びかけています。さわやかな気持ちで毎日を送り、学校生活が楽しくなるように生活リズムの定着にご協力ください。また、年2回「さわやかリズム週間」を行い、子どもたちの生活習慣について調査把握し、指導を強化してまいります。保護者の皆様にもその結果についてお知らせしますので、ご家庭での指導に活用いただきたく存じます。

(11) プロジェクト活動の充実・深化

本校児童**個々の自主性・主体性の育成と協働を重視**する取組として、今年度もプロジェクト活動を充実・深化させ、子どもたちの考えや意欲を大切にしながら進めてまいります。(明野小学校ホームページ「明野小学校Q&A」Q7参照)

また、教師側のかかわり方を全職員で再確認し**指導体制を充実**させ、指導にばらつきが起きないようにしていきます。

今年度は**開校30周年の取組**も、子どもたちの手で作り上げていく予定です。

(12) 縦割り班による活動の定着

昨年度までコロナの状況を見て進めてきた縦割り班の活動ですが、縦割り班清掃や縦割り班遠足、また、スポーツフェスティバルでは縦割り班種目など、縦割り班にすることの良さを生かした活動を今年度は定着させていきます。(明野小学校ホームページ「明野小学校Q&A」Q10, Q11参照)

(13) 学校行事、校内諸活動等の改善・充実・定着

学校の主要な行事や活動(**スポーツフェスティバル・文化フェスティバル・修学旅行・宿泊学習・遠足・体づくり 他**)に**プロジェクトの導入**を図り、それぞれの学年やブロックで、子どもたちの創意工夫や、自主性・主体性を大切にしたい取組になるようにしていきます。今後は大きな変更を余儀なくされることはほぼないと思いますが、**状況に応じて軌道修正**が必要な場面が生じた場合には、保護者の皆様にも早めの周知を心がけていきます。

また、「5 今年度の課題(経営の重点)の(2)」で触れました「効果的・効率的で、魅力ある教育活動」になるように、**その他の諸活動についても見直しと精選**を続け定着を図って行く予定です。

今年度は大きな行事(スポーツフェスティバル等)に「開校30周年記念」の冠をつけて、**30周年の意識化**を図ります。

(14) ご家庭への丁寧な対応

子どもの状況や生徒指導上の課題については、**職員間において報告・連絡・相談を徹底**し、個々に**指導した内容はご家庭へ報告・連絡**をきちんとさせていただきます。また、ご家庭からの問い合わせや相談事項(**電話相談や来校相談等**)につきましても、学校として担任による個人差のないよう**足並みを揃えた対応**を心がけ、保護者の皆様とともに子どもたちを見守り育てていきたいと考えています。

(15) 地域・ご家庭への積極的な発信

「5 今年度の課題(経営の重点)の(1)」でもお伝えした通り、本校が

進める教育活動については、地域・保護者の皆様にそのねらいやよさ、子どもの様子等を学校だよりや様々な機会でお知らせし、**理解をいただくための工夫**をするとともに**協力体制の構築**に努めてまいります。また、予定や**情報が確実に周知できるようにメール、各種通信、ホームページ等を有効に活用**してまいります。

(16) コロナ等の感染防止の指導と協力

今年度も学校では、**状況に応じた感染対策（場に応じたマスク・消毒・換気・朝の健康観察・手洗い・うがい等）**をしながら、教育活動を進めてまいります。

また、**臨時休業や学年学級閉鎖時の対応**につきましては、**ご家庭にご協力を依頼**することになります。急な対応となりますが、ご理解をいただけますようお願いいたします。今後も学校では、子どもたちの健康や教育環境を守るために努力してまいります。

(17) 地域・校種間(幼小中)の連携協力

今年度から、学校評議員制度に代わり**コミュニティ・スクール(学校運営協議会)**が市内全中学校区で導入されました。本校も明野中学校と連携しながら準備を進めてまいりました。協議会委員の皆様にご理解いただくとともに地域の皆様に学校運営に参画いただき、子どもたちのためによりよい環境づくりや教育活動の充実に努めて、「地域とともにある学校づくり」を目指します。

また、中学校の先生の小学校の乗り入れ授業、小中の先生方による「学力向上」「生徒指導」「特別支援教育」の部会等、**明野中学校区エリア活動を充実**してまいります。小学校を卒業する子どもたちが、中学校へ安心して通えるように、これからも中学校とはエリアの活動を通して連携強化に努めます。また、幼稚園保育園とは、**確実な引継ぎと情報提供**をしていただくことで、本校に入学する子どもたちにとって良い環境をつくっていきたいと考えています。

(18) 日常的な教育相談とその対応

日常的な教育相談を通して、**子どもの内面の把握(悩み、いじめ、学力不振、友だち関係、不登校等)**に努め、**ご家庭との連携(情報や解決策、方向性の共有、保護者の思いの理解)**を進めて、子どもたちが安心して生活できる環境を整えていきます。

(19) 安全管理

甚大な自然災害や凶悪犯の逃亡などの人為的災害発生時に、一昨年度より「**災害時の引き渡し**」をお願いしています。その手順を示した**マニュアル**を

以前お渡ししておりますが、今年度再配付し、緊急時に備えて訓練も予定しています。また、本校校舎は築30年の年数が経っていますので、全職員による定期的な**安全点検を実施**してまいります。

(20) 子どもと向き合う時間・働き方の改善

働き方を見直し子どもたちと向き合う時間を確保するために、教育活動や校務運営のあり方を考える「**働き方改革コアチーム**」会議を設置し、改善を進めてまいります。また、今の教員数の現状でできる工夫として、**教科担任制の一部導入**や**外国語加配教員（明野中からの派遣）との連携と指導技術の共有**等を行っていきます。必要最小限で行ってきた体育等の**学年指導についても感染対策を講じながら充実**させていきます。

昨年度途中から、学年通信をホームページに掲載するなど、担任業務の軽減を図りましたが、紙面配付が必要なものとそうでないものをもう一度見直し、**メール・ホームページを効果的に活用**してまいります。

学年・ブロック・各分掌業務においては、一部の職員に仕事が偏らない**業務推進の体制づくりと平準化**を進めてまいります。また、月2回以上の「**わくわくデー**」（**定時退勤日**）の**積極的活用**を促すとともに、個々の職員の**出退勤の管理（打刻：出退勤時刻を記録に残すこと）**を行い、健康管理に努めて心身ともに健康で子どもと向き合えるようにしたいと考えています。

(21) 服務規律の厳正

本校職員が地域や保護者の皆様から信用を損なうことがないように、**体罰、交通安全等遵守**の服務規律について、日常的に指導を徹底してまいります。本校職員が地域社会の範となるように、その職責の重さを指導し信頼される学校づくりを目指します。

7 開校30周年の取組

昨年度から、現6年生の子どもたちの中で「30周年プロジェクト」が発足し、取組がスタートしています。校門横に設置した開校30周年を周知する大きい看板も子どもたちがデザインを考えてくれました。30周年を祝う取組（記念集会）も子どもたちの企画で準備をする予定です。大がかりな式典のようなものは行わず、子どもたちの力でできるものにしていきたいと考えています。

今年度の学校経営テーマも“30th anniversary バージョン”として、6年生の子どもたちが考えた「**本気・根気・勇氣・元気を未来へ結ぶ**」にしました。子どもたちが好きな本校のイメージキャラクター「アケノンジャー」（カラー版にある4匹の猫）の胸に刻まれた思い（本気・根気・勇氣・元気）を自分たちだけではなく、下学年の子どもたちやこれから明野小に入ってくるであろう次の世代の子どもたちにもつなげていきたいという思いがこの短い言葉の

中に溢れていると感じます。子どもたちの思いやアイデアを大切にしながら、30周年の取組を進めてまいります。

8 おわりに

別紙カラー版の具現化の枠内に透けて見える形で「地域とともにある学校づくり」と入れました。コミュニティ・スクールのキーワードとも重なりますが、本校は開校して30年、地域の皆様に支えられ、保護者の皆様の温かいご支援とご理解のもとに、子どもたちとともに歩んできた学校です。いつもそのことを心におきながら、この先も「**地域とともにある学校づくり**」を**学校の基本姿勢**とし、30周年という一つの大きな節目の中で、良い流れにあるものはそれを継承し、課題とを感じるものについてはそれをリセットする気持ちで、この**30th anniversary** を**飛躍の年**にしたいと思っていますところです。

令和5年度も明野小学校をよろしくお願いいたします。